

司法面接支援室通信

ごあいさつ

前回の司法面接支援室通信では、文部科学省のプロジェクト終了に伴い司法面接支援室の面接室と観察室が撤去される前提で記事を書きました。幸いにも昨年度末に新しいプロジェクトが採択され、今年度も司法面接支援室は存続しています。

今回の新しいプロジェクトが採択される直前に、厚生労働省・警察庁・法務省から、子どもの心理的負担等に配慮した面接の取組に向け、児童相談所・警察・検察がさらに連携を強化するよう通達が出されました。これまで別々に仕事をしていた機関が協同で作業を行うのは簡単ではないかもしれませんが、新しいプロジェクトが多専門連携の手助けになれるならば幸いです。 (文責 武田室員)

プロジェクトの経緯

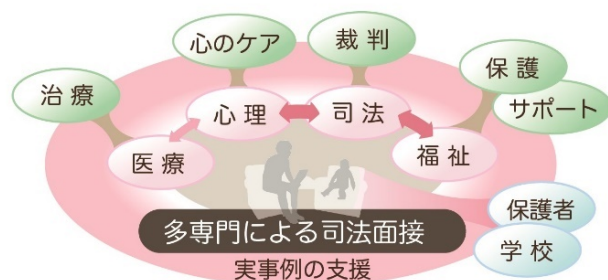
北海道大学の司法面接支援室は、2008年度より4年間に渡り、独立行政法人(現国立研究開発法人)科学技術振興機構(JST)・社会技術研究開発センター(RISTEX)の支援を受け、「犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練」プロジェクトのもとで司法面接の研究・開発・研修を行いました。引き続き2011年度から5年間、文部科学省・科学研究費補助金・新学術領域研究「法と人間科学」で「子どもへの司法面接：面接法の改善その評価」プロジェクトが採択され、司法面接の評価や改善に努めてまいりました。

そして2015年度末より再びJST・RISTEXの支援を受け、新しいプロジェクト「多専門連携による司法面接の実施を促進する研修プログラムの開発と実装」を行っております。これまでと同様に、基礎研究と研修実施の両輪で、面接法・研修プログラムの改善や面接の支援・評価を行います。これらに加え、新プロジェクトでは面接者の育成にも尽力する所存です。

新プロジェクトの概要

司法面接では、子どもの精神的負担を最小限にし、正確な情報を聴取するために話しやすい関係性を築き、オープン質問を用いて子どもの自発的な報告を求めます。また、子どもが福祉・司法・医療などの場で何度も話さなくて済むように、面接の録画・録音や多専門による連携を目指しています。

新プロジェクトでは、特に、多専門(児童相談所・警察・検察・医療など)の連携を困難にする心理的要因を調査し、精神的負担に配慮しつつ正確な情報を多く収集する面接法の習得・共有・連携を支援するプログラムの開発と社会実装を目指しています。



プロジェクトの具体的な活動

従来のプロジェクトでは司法面接研修とフォローアップ研修の2つを行ってまいりましたが、新プロジェクトより、加えてトレーナー研修も実施いたします。

司法面接研修【基本 2 日間】 講義、グループワーク、録音・録画を伴うロールプレイ、ロールプレイの振り返りなどを行い、面接法の習得を目指します。ロールプレイの振り返りでは、録画したロールプレイ映像をもとに面接の振り返りを行います。

フォローアップ研修【約半日～1 日】 上記の司法面接研修を修了した研修者を対象として実施します。フォローアップ研修では、録画された実事例の司法面接ビデオを用いて振り返りを行います。この研修では、実践的かつ具体的に司法面接を現場で活用していくことを目指します。

トレーナー研修【半日と 2 日間】 面接者を育成するトレーナー候補に対する研修です。トレーナーになるための講義（半日）と、その翌日に上記の司法面接研修（2 日間）にトレーナーの立場としてご参加いただきます。司法面接研修（2 日間）の修了が受講の条件となります。

2016 年度 6 月研修の様子

6 月 28-29 日に北海道大学で司法面接研修が行われ、全国から 36 名が研修にご参加くださいました。新プロジェクト初となる今回の研修では、**①多専門による協同を促進するため、児童相談所・警察・検察・医療関係施設に加え、ワンストップセンター**からもご参加いただいたこと、**②面接者を育成するトレーナー研修を開始**したこと（全国から 4 名参加）、の 2 点がこれまでの研修と異なる点です。

研修の様子につきましては、次号で詳しくご報告させていただく予定です。



振り返りの様子



トレーナー研修の様子

2016 年度 10 月・11 月研修のお知らせ

2016 年度 10 月・11 月の司法面接研修・トレーナー研修の詳細が決定いたしました。

詳細は web ページをご覧ください（ <http://child.let.hokudai.ac.jp/news/> ）。